

平成22年5月31日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520131

研究課題名（和文） 古事記・日本書紀の文字表現と成立の研究

研究課題名（英文） A Study of the expression of Chinese character on Kojiki and Nihonshoki

研究代表者

瀬間 正之（SEMA MASAYUKI）

上智大学・文学部・教授

研究者番号：00187866

研究成果の概要（和文）：古事記・日本書紀の文字表現について、その源流と成る古代朝鮮半島の文字資料、その背景となる漢籍・仏典の教養を明らかにし、その成立について考察することを目的に以下の成果を得た。

1. 河村秀根・益根、五井蘭洲など江戸時代の研究文献の調査と解読
2. 新たに発見された百濟資料の解読
3. それらを踏まえた記紀の文字表現の背景の具体的考察

研究成果の概要（英文）：

The current study concerning character expression in the Kojiki and the Nihonshoki aims at analyzing the process of its establishment for both chronicles through clarifying the original writing resources in the ancient Korean Peninsula and through exploring cultural influences by Chinese bibliographies and Buddhist scriptures.

The following are the achievements of the study.

1. Studied and deciphered academic resources written by the scholars such as Kawamura Hidene, his son, Masune, and Goi Ransyu of the Edo period.
2. Deciphered newly-discovered resources of Paekche.
3. And studied detailed background information of the process of establishment for character expression in the Kojiki and the Nihonshoki based on the analyses above.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,300,000	720,000	4,020,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：古代文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 平成一三年～平成一六年度、基盤研究(C)(2) 上代文学に与えた六朝文学・仏典の影響についての考察(課題番号13610513)において、相応の成果をあげることができた。平成一七年度は科研費を申請することなく、当該課題をひとまずまとめることに専心した。前課題を継承し、発展させることを意図した。

(2) 使用テキストの準備状況

『古事記』については、独自の校訂本文を作成し、それに基づいた『古事記音訓索引』(1993年)を公刊している。これに基づいたデータベースも作成済みである。

『日本書紀』については、国文学研究資料館第6回シンポジウム・コンピュータ国文学「二十一世紀の文学研究とコンピューター日本古典文学本文データベースの評価を通して」(2000年12月8日)において、『日本書紀』データベースについて、その方法と作業過程について講演して以来、着手し五年が経過したが、未完成であり、これを推し進めていきたい。

その他、漢籍・仏典については、市販、あるいは公開されているデータベースを利用する。

2. 研究の目的

(1) 『古事記』『日本書紀』の文字表現成立の経緯を明らかにする。すなわち、誰が、何に学んで如何に表現したのかという問題の解明である。したがって、国内資料のみならず、漢籍・仏典・古代朝鮮半島文字資料を踏まえた研究となる。

(2) 出典論の追究と同時に、『古事記』と『日本書紀』 α 群・ β 群の文章の対照研究による成立過程と編者(実際の最終的筆録者)像の探索も目的とする。

3. 研究の方法

(1) 作成済みの『古事記』本文データベース(appファイル)の体裁に合わせて『日本書紀』本文データベースを作成する。

appファイルとは、[書名, 巻数, 頁段行, 前の行から受けた漢字数, 行データ, 後の行に送る漢字数]で構成されたもので、grepによる検索に便がある。

(2) 『日本書紀』の典拠研究の一環として、河村秀根・益根の『書紀集解』の引書データベースの作成を行う。

(3) 『日本書紀』本文に独自の観点で朱を入れた五井蘭洲の『刪正日本書紀』(大阪大学図書館懐古堂文庫蔵)、同じく五井蘭洲の『日本書紀』神代巻の研究書『日本書紀神代巻講義』『神代巻口訣紀聞』(大阪中之島図書館蔵)の撮影と研究を行う。

(4) 所謂 α 群の巻頭である『日本書紀』雄略紀について、(1)(2)(3)を踏まえ、その出典・文字表現などを古事記と比較しながら研究する。

(5) 記紀歌謡についても同様に、(1)(2)(3)を踏まえ、歌謡詞章に漢籍が与えた影響の有無を調査・研究する。

(6) 古代朝鮮半島文字資料の収集と整理を行う。

4. 研究成果

(1) 『日本書紀』本文データベースは巻一・巻二について、完成させた。以下の通り、APPファイルにJIS外漢字には今昔文字鏡番号を充てた体裁である。その一部を示せば以下の通りである。[B・V・P・行数・前の行から受けた漢字数・行データ・後の行に送る漢字数]の体裁を採った。

B:巻名……神代上、神武など

V:巻数……巻一、第一段、本書をV:110
巻一、第一段、第一の一書を

V:111

巻一、第一段、第六の一書を

V:116

P:頁数……岩波古典大系の頁に準拠。

神代上, 110, 77, 1, 0, 日本書紀巻第一。 , 0

神代上, 110, 77, 2, 0, 神代上。 , 0

神代上, 110, 77, 3, 0, 古天地未剖。陰陽不分。

渾沌如鷄子。溟&M017578;而含牙。及其清陽者。薄靡而爲天。 , 0

神代上, 110, 77, 4, 0, 重濁者。淹滯而爲地。精妙之合搏易。重濁之凝竭難。故天先成而地後定。然後。 , 1

——中略——

神代上, 115, 79, 6, 5, 如葦牙之初生&M005204;中也。便化爲人。號國常立尊。 , 0

神代上, 116, 79, 7, 0, 一書曰。天地初判。有物。若葦牙。生於空中。因此化神。號天常立尊。 , 1

神代上, 116, 79, 8, 1, 次可美葦牙彦舅尊。又有物。若浮膏。生於空中。因此化神。號國常立尊。 , 0

神代上, 120, 79, 9, 0, 次有神。 &M005204; 土

&M057153;尊。[&M005204;土。此云于&M016752;尼]。沙土&M057153;尊。[沙土。此云須&M016752;尼。亦曰&M005204;土根尊。沙土根尊]。次有神。大戸之道尊。[一云。3神代上,120,79,10,3,大戸之邊]。大苦邊尊。[亦曰大戸摩彦尊。大戸摩姫尊。亦曰大富道尊。大富邊尊]。次有神。面足尊。惶根尊。[亦曰吾屋惶根尊。亦曰忌櫃城尊。亦曰青櫃城根尊。0

——後略——

(2) 河村秀根・益根『書紀集解』所引仏書データベースを作成した。これは、上智大学国文学科紀要第27号に『書紀集解』所引仏書索引稿』として掲載した。

テキストは、小島憲之補注『書紀集解』全五冊(臨川書店、一九六九年初版発行)により、索引の配列は、「仏典名(五十音順)・大正新脩大藏經番号・当該仏典の巻品・書紀集解の巻・書紀集解の頁・注が施された語詞・備考」の七項目、「仏典名」は、五十音順に配列し、原則として『書紀集解』引用の名称を用いたが、改めたものも存する。一部をしめせば以下の通りである。

孟蘭盆經,685,,26,1548,孟蘭盆,685 仏説孟蘭盆經

觀無量壽經,365,,2,184,(サルタヒコの形状),仏説觀無量壽經

觀無量壽經,365,,30,1854,大勢至,仏説觀無量壽經

舊譯最勝王經,663,懺悔品,14,815,和顏悦色,663 金光明經 664 合部金光明經、同文

孟蘭盆經←芸文類聚,685,芸文類聚・歳時部,26,1569,七代父母,

元亨釈書,,願雜,20,1214,司馬達等,

元亨釈書,,力遊,20,1215,惠便,

元亨釈書,,20,1215,善信尼,

元亨釈書,,会儀志,20,1216,大会・齋,

——中略——

妙法蓮華經,262,藥王菩薩品,27,1650,三十三天,

妙法蓮華經,262,普門品,29,1829,觀世音經 [按謂法華經普門品],妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

無量壽經,360,,2,247,至頸,

無量壽經,360,,28,1656,法服,佛説無量壽經 藥師本願功德經,450,,2,221,臨産,仏典語

藥師琉璃光如来本願功德經

藥師瑠璃光七仏本願功德經,451,,29,1824,藥師經,451

唯識論,1585,,22,1280,忿・瞋,1585 成唯識論 瑜伽論←纂疏,1579,,2,225,天垢,瑜伽師地

論 30.0298a22

楞嚴經,945,,19,1117,魑鬼,大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行首楞嚴經

楞嚴經,945,,19,1137,爲出世因一脩出世爲因,大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行首楞

嚴經

楞嚴經,945,,19,1158,爲當,大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行首楞嚴經

楞嚴經,945,,24,1407,合眼,大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行首楞嚴經

楞嚴經,945,,27,1646,開眼→開百佛眼,大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行首楞嚴經

(3) APP ファイルに加工した雄略紀本文に撮影済みの五井蘭洲『刪正日本書紀』の書き入れを施した。その一部を示せば、以下の通りである。

雄略,14,459,3,3,遂共得_レ間。而出_レ逃入圓大臣

宅。天皇使_レ々々_レ之_レ。大臣以_レ使報曰。「蓋聞。

人臣有_レ難_レ事。1

雄略,14,459,4,1,逃_レ入王室。未_レ見_レ君王隱_レ

匿臣舍。方今坂合黒彦皇子與_レ眉輪王。深恃_レ臣心。2

雄略,14,459,5,2,來_レ臣之舍。不忍遣之教辞_レ。精忍送_レ歟。

由_レ是。天皇復益興_レ兵。圍_レ大臣宅。大臣出_レ立於庭。索_レ脚帶。1

雄略,14,459,6,1,時大臣妻。持_レ來脚帶。

不俟_レ悲_レ槍矣傷_レ懷而歌曰。「飢瀕能古簸。多倍能波伽

摩鳴。那々陸鳴絮。0

雄略,14,459,7,0,酋播酋陀々始謠 阿遙比那陀

須暮。大臣_レ具冠帶_レ裝束已畢。進_レ軍門_レ跪拜曰。「臣

雖_レ被_レ戮。0

——中略——

雄略,14,501,9,2,尾代空彈弓弦。於_レ海濱上_レ。

而復殺_レ射_レ死踊伏者_レ二隊。二囊之箭既盡。即喚_レ船人

索_レ箭。2

雄略,14,501,10,2,船人恐而自退。尾代乃立_レ弓執_レ末而歌曰。瀕致爾阿賦耶。鳴之慮能古。

阿母爾舉會。1

雄略,14,501,11,1,枳擧曳儒阿羅每。距爾爾播。枳擧曳底那。唱訖自斬_二數人_一。更追至_二丹波國浦掛水門_一。0

雄略,14,501,12,0,盡逼殺之。[一本云。追至_二浦掛_一。遣_レ人盡殺之]。1

(4) 記紀歌謡について、その歌謡詞章に漢籍が与えた影響の有無を調査・研究し、上代文学97号に「記紀歌謡と漢籍教養—古事記に於ける歌謡詞章の更新—」と題して公刊した。記紀歌謡への漢籍の影響はほとんど否定的に考えられてきた。たとえば、小島憲之氏も、上代歌謡が中国文学と交渉する点があるとすれば、歌詞の命名法「～歌」「～ふり」に過ぎないことを述べられ、「歌詞の内容はまづ一般にわが古代人より上代人へと自ら育成した表現であり、この点は両国の交渉を確実に指摘することはできない」とされ、従来、かろうじて、その影響関係を指摘されるのは、[記[85]]の冒頭「天飛ぶ鳥も使ぞ」が、蘇武の「雁信」を踏まえたという点、蘇我馬子の寿歌[紀[102]]の結句「歌づきまつる」が、漢郊祀歌結句「與獻嘉觴」等と関係するという点等であった。しかし、調査の結果、八千矛神歌謡の「賢し女」「浦渚の鳥」「ぬえ(夜半に鳴く鳥)」、[記[20]・[21]]の「風」と「雲」、[記[57]]の「葉広斎つ真椿」が漢字文化の受容のもとに更新された歌謡詞章であることを明らかにした。

詳細は上代文学97号を参照されたい。

(5) 古代朝鮮半島文字資料の収集と整理を行い、その一部、二〇〇九年一月に発見された百濟弥勒寺「金製舍利奉安記」について、翻刻・訓読・解説を施し『青木周平先生追悼古代文芸論叢』に掲載した。その訓読を示せば、以下の通りである。

竊に以るに、法王の世に出でますは、機に随ひて感に赴き、物に応じて身を現すこと、水中の月の如し。

是を以て、生を王宮に託し(王宮に託生し)、滅を双樹に示し(双樹に示滅し)、形を八斛に遺し(八斛に遺形し)、益を三千に利す(三千に利益す)。

遂に光曜すること五色にして、行き遶ること七遍ならしめ、神通変化すること、不可思議ならしむ。

我が百濟王后、佐平沙毛積徳の女は、善因を曠劫に種ゑ、勝報を今生に受く。

万民を撫育し、三宝を棟梁す。故に能く、謹んで浄財を捨て、伽藍を造立せり。

己亥 639年正月廿九日を以て、舍利を奉迎す。

願くは、世々供養して、劫劫尽くこと無からしめ、

此の善根を用て、仰ぎて大王陛下に資し、年寿は山岳と齊しく固く、宝暦は天地の共同に久しく、上は正法を弘め、下は蒼生を化さむことを。

又願くは、王后即身にして、心は水鏡に同じく、法界を照らして恒に明る、身は金剛の若く、虚空に等しくして滅せず、

七世久遠、並びに福利を蒙り、凡是心有るもの、俱に仏道を成ぜむことを。

この解説により、弥勒寺「金製舍利奉安記」は、梁代仏教を基盤に、隋から初唐にかけての同時代の交流の中で書かれたことをあきらかにするとともに、「上弘正法、下化蒼生」の表現が所謂「聖徳太子」撰の『維摩経義疏』のみに見られることから、百濟仏教の受容を具体的に確認することができた。

(6) 古事記の成立に関して、その序文に語られる古事記撰録の発端を示す天武天皇の詔に「斯乃、邦家之経緯、王化之鴻基焉」が直接的には「進五経正義表」に依るものの、その淵源には「毛詩序」の思想が踏まえられていることを明らかにした。この詳細は、「記序はなぜ「進五経正義表」に依拠したのか」と題して、2009年3月に『記紀・風土記論究』(おうふう)に掲載した。

(7) 古事記・日本書紀の成立に深く関係する「スメラミコト」という呼称の成立と「清明心」の問題と三角縁神獸鏡をはじめとする古鏡銘文との関係を中心に調査し研究をまとめ、清明心が鏡の銘文に深く関わることを論証した。これについては、「清明心の成立とスメラミコト」と題して、高岡市万葉歴史館紀要18に掲載した。

(8) 「推古朝遺文」と称され、推古朝に制作されたとされる金石文の音仮名。用語・文体を分析し、これらが早くとも七世紀末以降に制作されたことを明らかにした。これについては、「所謂『推古遺文』について」と題して、アリーナ5号に掲載した。

(9) 安康記・目弱王の乱の中で「先日所問

賜之女子、訶良比賣者侍」の「先の日」について、前にも後にも古事記は一切言及しないことに着目し、「先」の用例を調査した結果、「以前、過去」の意で用いられる例は、「先日」の三例を含めて十一例あるが、前の記述を受けずに用いられるのは、当該例を除くと、景行記「尾津の前の一つ松」の「先御食之時」の一例に過ぎず、「先日」の用例は、景行記・倭建命の東征「入坐先日所期美夜受比賣之許」の場合、「入坐尾張國造之祖、美夜受比賣之家。乃雖思將婚、亦思還上之時、將婚、期定而幸于東國」と前に「先日」の描写があり、仲哀記の「於是教覺之状、具如先日。」の場合も、前に「言教覺詔者『西方有國。金銀為本。目之炎耀、種啖珍寶、多在其國。吾今歸賜其國』」と書かれるように、当該例以外ではみな前の記述を受けていることを確認した。これらに対して安康記・目弱王の乱では、唐突に「先の日に問ひ賜ひし女子」と記述されるのみで、「先の日」について何ら言及がないのは異例と言わざるを得ない。

この古事記の書き様について、万葉集冒頭の雄略天皇御製歌を念頭において考察し、万葉集の巻頭を飾る雄略御製歌が周知されていたことを前提に古事記が書かれた可能性を論じた。これについては、2009年10月の萬葉学会で口頭発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4件)

- ① 瀬間正之、『書紀集解』所引仏書索引稿、上智大学国文学科紀要、査読無、27、2010、1-14
- ② 瀬間正之、清明心の成立とスメラミコト、一鏡と鏡銘を中心に一、高岡市万葉歴史館紀要、査読無、18、2008、1-14
- ③ 瀬間正之、所謂「推古遺文」について、アリーナ、査読無、5、2008、231-235
- ④ 瀬間正之、記紀歌謡と漢籍教養一古事記に於ける歌謡詞章の更新一、上代文学、査読有、97、2006、45-59

[学会発表] (計 2件)

- ① 瀬間正之、訶良比賣求婚譚は何故書かれなかったのか一古事記と万葉集の交渉一、萬葉学会平成二一年度大会、2009年10月25日
- ② 瀬間正之、記紀歌謡と漢籍一古事記に於ける歌謡詞章の更新一、上代文学会平成一八年度大会、2006年5月21日

[図書] (計 2件)

- ① 瀬間正之、他、おうふう、記序はなぜ「進五経正義表」に依拠したのか、記紀・風土記論究、2009、24-38
- ② 瀬間正之、他、おうふう、百濟弥勒寺「金製舍利奉安記」、青木周平先生追悼古代文芸論叢、2009、478-488

6. 研究組織

(1) 研究代表者

瀬間 正之 (SEMA MASAYUKI)
上智大学・文学部・教授
研究者番号：00187866

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：